

July 2010 Vol.32

ウーラノス Orpallios

会輝く

楽天イーグルスのチアリーディングチームで活躍

文学部2年 かわしま 川嶋 ゆうな 由奈さん

東北楽天ゴールデンイーグルス公式チアリーダー東北ゴールデンエンジェルスの一員として、試合当日のパフォーマンスをはじめ、仙台七夕やサンタパレードなど、地域のさまざまなイベントに参加しています。エンジェルスは年齢幅が広く、大学では出会えない多くの人たちとも親しくなれるので、とても勉強になっています。

大学では新入生のお世話役であるオリエンテーションリーダーを体験し、きめ細かな作業や計画の立案と実行することの大切さを学びました。授業の空き時間に友人たちとキャンパスのベンチで語らうひとときは、もっとも心が安らぐときです。高校時代のニュージーランド留学は忘れられない思い出の一つですが、今度はワーキングホリデーのような形で留学し、将来は英語を活かした仕事に就きたいですね。



地域に根ざす

今回は本学の地域貢献についてお話をさせていただきます。ひと口に地域貢献といっても、技術移転や公開講座など、さまざまな形のものがありますが、私は地域に根ざした人材の提供こそが、本学における最大の地域貢献だと考えています。

企業の方からはよく「東北学院大学の卒業生は信頼できる」というお話をいただきます。聖書の中の「地の塩」という言葉に象徴されるように、社会のために役立ちたいという熱い思いが一人ひとりの中に息づいていること、それが地域での信頼を醸成し、就職面での強さにつながっているのだと思います。

大学を含めた東北学院全体の同窓生は約16万人。そのうち11万人を超える同窓生と連絡が取れることは、大いに胸を張っていいと思っています。東北学院の同窓生で組織されている同窓会支部と企業等のTG会は、全国で83支部・115社にまで広がりました。これらの数字を見ても、地域に貢献する人材のネットワークが、いかに膨大なものかがおわかりいただけるはずです。

本学では、そのような同窓生のパワーを糧に、企業や自治体との連携を活発に行っています。企業との連携では、産学連携推進センターを中心とした委託研究や研究助成、共同研究などがあげられます。本学が早い段階から組み込みソフトウェアの人材の育成に協力し、宮城県におけるIT技術のレベルアップに努めてきたことも、これまでの大きな成果の一つです。

また、自治体との連携では、多賀城市との包括的な協力関係が代表的です。その取り組みは本誌の中でも何度か紹介

してきたので、ここでは割愛させていただきますが、多賀城市だけでなく、仙台市内の小学校を対象とした外国語ボランティア活動にも

力を入れています。これは学生や留学生が子供たちの英語の授業を支援するもので、仙台市教育委員会からは感謝状をいただいています。英語教育が一つの機軸になっている本学では、昭和40年代、北日本で初めてLLシステムを導入し、英会話の新しい教育法を広く学外にも開放してきました。私はその講習を受けた第1期生です。

昨年の11月には、東北学院大学博物館が誕生しました。文学部歴史学科で集めた貴重な資料を中心に展示公開し、学生の教育の場としてはもちろん、地域の交流の拠点としても幅広く活用されています。各キャンパスで開催している公開講座と同じように、本学の博物館がさらに多くの皆様に利用していただけることを願っています。

学生の自主的なボランティア活動も、かけがえのない地域貢献につながっています。なかでもボランティアサークルの草分け的存在であるセツルメント会の活躍ぶりは、本学の大きな誇りといえるでしょう。かつては日本中の大学にあったセツルメント会ですが、今では唯一本学だけにあるというのも特筆すべき事実です。

このほかにもIT教育の一環としてロボット教材を活用した高・大連携事業や、宮城県以外の東北5県と北海道で開催している文化講演会など、さまざまな地域貢献が信頼という名の大輪を咲かせています。

わが子の虐待や無差別殺人など、信じられないような事件が頻発している今ほど、心の大切さが叫ばれている時代はありません。本学の卒業生が各方面で高い評価をいただいているのは、聖書を一つの座標軸にしなが、「若者の心を育てる」ことに力を注いできた結果であろうと考えています。「東北学院大学の卒業生は信頼できる」——私たちはこの言葉を胸に刻みながら、今後も地域に根ざした貢献活動を続けてまいります。



学長
星宮 望
Nozomu HOSHIMIYA



キャンパス点描



東北学院創立120周年を記念して植えたハンカチの木の花が咲きました。



四季折々に違った表情をのぞかせる、土樋・多賀城・泉の各キャンパス。春から夏にかけては、眩いばかりの新緑に包まれ、一年のうちでもっとも爽やかな時期を迎えます。そんな豊かな環境のもとで、脈々と受け継がれる東北学院の建学の精神。本学で学ぶ若人たちが、それぞれの個性をいかんなく発揮しながら、「地の塩、世の光」として社会に貢献することを願っています。

もくじ Contents

情報フロントライン / 固い絆によって結ばれた青山学院大学との総合定期戦	3
先生ってこんな人 / 谷田部 武男先生(教養学部) / 澤野 和博先生(法学部) / 岡田 宏成先生(工学部)	4
キャンパスで聞きました! / ここが満足!学院大	5
青春ing / バスケットボール部 / 放送会	6
TGUインフォメーション	7~9
TGUカレンダー	9
歴史を伝え、今に導く 23 / 杉山元治郎 小高教会牧師として再出発	10
我ら卒業生 / ノホテル札幌 シェフソムリエ JSA公認マスターソムリエ 澁谷 昭さん	11



固い絆によって結ばれた 青山学院大学との総合定期戦



第61回を迎えた今回の総合定期戦。スポーツを通じた両校の絆は、ますます深まっています。



定期戦が復活した頃の写真。

1950(昭和25)年の第1回大会以来、スポーツを通じて確かな友情と心からの交流を育んでいる青山学院大学との総合定期戦。ともにプロテスタント系キリスト教を建学の基礎として、教育やスポーツなど、さまざまな面で友好的な関係を続けてまいりました。

対青山学院大学総合定期戦の歴史をひも解いてみると、第1回大会よりもずっと以前の1929(昭和4)年に初めての定期戦が開かれたという記録が残っています。しかし、当時は社会情勢が不安定で、やがて太平洋戦争に突入したことから、その次の定期戦開催後に中断を余儀なくされてしまい、1950(昭和25)年に再開された大会を“第1回”と呼ぶようになりました。1950(昭和25)年は、両大学が新制大学として発足した翌年にあたります。

その後、西暦の奇数年は仙台で、偶数年には東京で開催され、スポーツによる友好・親善の祭典が60年以上もの歴史を積み重ねていることは、まさに本学の大きな誇りです。卒業後もOB同士で交流を深めているケースが多く、総合定期戦をきっかけとした友情の翼は、ますます大きな広がりを見せています。

第61回を迎えた今回の総合定期戦は、6月5日(土)から青山学院大学を会場として開催され、3日間にわたる熱戦が繰り広げられました。総合成績は18対14で青山学院大学に軍配が上がり、これで通算成績は本学の23勝38敗となりましたが、戦績に関係なく、両校の選手や関係者の間では熱い友情が育まれました。

本学では、青山学院大学のほかに、北海学園大学との総合定期戦も1955(昭和30)年から開催されています。



先生ってこんな人

けん玉の指導



谷田部武男先生

教養学部

子供が小学生の頃、けん玉に興味を持ち、親子揃って日本けん玉協会の先生の手ほどきを受けているうちに、けん玉のとりこになりました。どちらかという、けん玉を教えるのが好きな私は、15年ほど前から小学生を対象とした「けん玉教室」を開催。月に1~2回、地域の集会所を借りて、けん玉の楽しさを子供たちに教えています。

これといった設備がいらす、畳1枚ほどのスペースで誰もが手軽に楽しめるのは、けん玉の大きな魅力。子供たちが「できた!」と喜んでいる瞬間と出会えたときは、さすがに嬉しいですね。みんなで宿泊に行ったり、社会人になった今でもけん玉に夢中という教え子が遊びに来てくれたり、楽しみは尽きません。けん玉にも全国大会がありますが、あまり勝ち負けにこだわらず、これから“楽しく遊ぶ”ことをモットーに、けん玉教室を続けていきたいです。

(担当科目/メディアコミュニケーション)



けん玉には、電気で動くゲームには負けない楽しさがあります。

ラグビーに燃える



澤野 知博先生

法学部

小・中学校から高校にかけては野球部に所属していましたが、肩を壊してからはラグビーに没頭しています。教員になってからも、大学ラグビー部の部長として、部員達と一緒にグラウンドで汗を流しています。学院大学ラグビー部は東北地区大学ラグビーリーグで連覇を続けていますが、体力・技術ともに勝る関東のチームに勝って、全国選手権に出場することを目標としており、選手と一丸となってその目標のためにトレーニングを続けています。諦めささしななければ、その目標も達成できることでしょう。自分にとってラグビーの醍醐味は、本気でぶつかり合えるところ。とにかく体が動くうちは、学生に負けられないように全力でグラウンドを駆け巡り、「打倒!関東のチーム」を果たしたいですね。

また、オフの日は40代以上のクラブチームの練習にも参加しています。大学を離れて、さまざまな職業の皆さんと交流できることは、とてもいい勉強につながっています。

(担当科目/民法)



ラグビーも研究も“一生懸命”が身上です(写真右が澤野先生)。

仲間とアウトドア



岡田宏成先生

工学部

野球やスノーボード、釣り……。気の合う仲間と一緒に、アウトドアに挑戦するのが好きです。“広く浅く”とも言ったらいいの、一つのことにとらわれず、興味を持ったことには、どんどんトライしています。あくまでも遊びでやっているの、サークルに入ろうとか、本格的に始めてみようという気持ちはありません。「何ごとも経験」を合言葉に、縛られることなく、自由に活動するのが好きですね。

外で体を動かすことはもちろん、仲間との触れ合いもかけがえのない思い出につながっています。どんなに離れていても、連絡を取り合って、楽しいひとときを共有できる仲間がいるというのは嬉しい限りです。工学部には4月に赴任したばかりですが、これからも「よく遊び、よく学べ」の精神で、新しいことにチャレンジしたいと思っています。

(担当科目/材料工学)



ひと通り揃えているうちに、愛用品も増えてきました。

キャンパスで聞きました!

今回のテーマ **ここが満足! 学院大**

一つのテーマに対して、みんなはどう思っているのか、キャンパス内の声を集めたこのコーナー。今回は「ここが満足! 学院大」をテーマに聞いてみました。

多くの人に出会えたことです。なかでも先輩たちには、いろいろなことを教わったので、今度は私が後輩たちに教える番です。

3年生・阿部さん

個性満載のサークルが多いことです。私自身は「SELFISH」というサークルで、スポーツやキャンプなどにチャレンジしています。

4年生・菅野さん

就職課のきめ細かな対応には大満足です。一人ひとりに対し、とても丁寧に接してくれるので、心の支えになりました。

大学院生・阿部さん

クラスやサークルなど、ふだんの学生生活を通じて、友達がたくさんできたことです。みんな一生の仲間です!!

3年生・山口さん

人として大きく成長できることです。多くの人との出会いがあることは、学院大の強みですね。

3年生・太田さん

ゼミでもサークルでも、熱い仲間が多いことです。多くの仲間との思い出は、学生時代のかけがえない財産です。

4年生・小松さん

地元出身の私にとって、学院大は再会の宝庫! 小学校時代の懐かしい友達と、偶然キャンパスで会ったときは感激しました。

4年生・伊藤さん

工学部は、研究のための設備が充実。好きな研究に専念でき、自分の専門を活かせる仕事に決まったので、喜びも二倍です!!

4年生・鹿山さん

とにかく学食のラーメンがおいしい! なかでも「味噌ラーメン」は、私のイチオシのメニューです。

4年生・安田さん

地元の高校出身ということもあり、友達や先輩がたくさんいて、とても身近に感じられます。みんなが満足できる大学だと思います。

3年生・鍾水さん

学生と先生方の距離が近いことです。ユニークな先生方が多く、気軽に相談できるところは大きな魅力につながっています。

3年生・鈴木さん

学院大は、やりたいことができる大学! 勉強にしてもバイトにしても、人生の中で大事なことをたくさん学んでいます。

3年生・亀井さん

地元の就職に有利なところ。先輩の就職状況を聞けば聞くほど、「就職に強い学院大」を実感できますね。

2年生・細川さん

皆様のご意見をお待ちしております。

編集室では「ここが満足! 学院大」というキーワードにちなみ、読者の皆様からのご意見やご感想を募集中です。ご応募は、住所・氏名・連絡先をご記入のうえ、下記のメールアドレスあてにお送りください。

E-mail: uranos@t-gakuin.jp

青春ing

元気いっぱい活動が続けている
本学のサークルを紹介します。



文武両道で、 めざすは全国レベル

バスケットボール部

仙台89ERSや日本を代表する実業団にも多くの卒業生がいて、東北では圧倒的な強さを誇っているバスケットボール部。「文武両道」をモットーに、男女とも1日2時間という限られた練習時間の中で、心と技術に磨きをかけています。

「充実した環境の中で練習に打ち込めるのは、学院大のバスケットボール部の強み」と語るのは、女子マネージャーの工藤映莉夏さんです。「全員が“やる時はやる”という姿勢で、集中力を切らさずに練習しています。もちろん練習以外では、学年の分け隔てなく、和気あいあいとした雰囲気にも包まれています」。めざすは全国レベル。東北の雄としてインカレに出場し、“学院大旋風”を巻き起こすことが目標です。



工藤映莉夏さん(経済学部4年)。「秋の東北リーグを勝ち抜いて、チームのみんなと喜びを共有したいですね」。



みんなで力を合わせて、 番組づくり

放送会

お昼の学院内放送を中心に、入学式や定期戦の取材、放送祭での発表など、さまざまな活動が続いている放送会。アナウンス・報道・技術・制作・ドラマという5つの部門に分かれ、プロも顔負けのチームワークを発揮しながら、ラジオドラマや報道番組を手がけています。

「いろいろな人たちと出会えるのは、この上ない魅力」と語る志羽久由佳さんは、第60代執行委員会の委員長として、放送会のリーダー役を務めています。「歴史のあるサークルなので、世代を越えた大先輩がたくさんいます。縦・横のつながりは、かけがえのない心の財産ですね」。番組づくりで大切なのはチームワーク。みんなで力を合わせて、一つの番組をつくり終えたときの喜びはひとしおです。



NHKから依頼を受けて制作したTV番組「@キャンパス」の撮影風景。



志羽久由佳さん(教養学部3年)。「学内だけでなく、街に出て取材することもあるので、本当に多くの出会いが広がっています」。

TGUインフォメーション

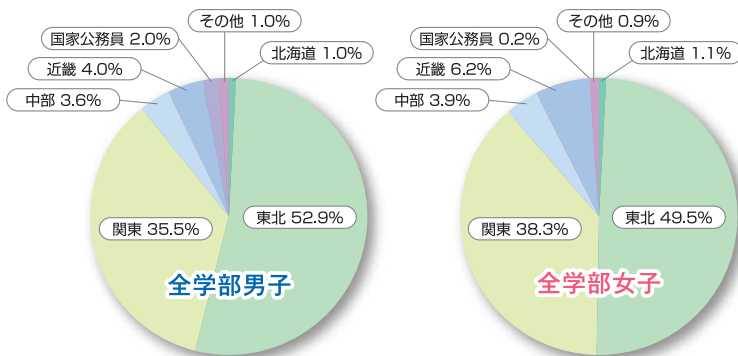
2 人に1人は東北に就職が決まっています

平成21年度の就職状況を見てみると、就職率は文系学部が78.5%（男子81.2%、女子74.6%）、工学部が83.5%（男子83.8%、女子80.0%）で、全学部では79.4%（男子81.8%、女子74.8%）という結果でした。地域別の就職状況（地域区分は本社所在地）では、男女とも東北の割合が約5割を占めています。

リーマンショック以降の経済状況の悪化に伴い、大学新卒者の就職状況は厳しさを増していますが、本学の場合は、どんなに厳しい状況の中でも東北を中心とした多くの企業から「東北学院大学の卒業生は信頼できる」という高い評価をいただいています。



平成21年度地域別就職状況



※本文中を含め、データはすべて平成22年3月24日（卒業式）現在。

初めての就職活動
親としてできることは——!?

保護者の体験談

- 子供の健康管理と身だしなみには気を付けて、できるだけふだん通りに接していました。とにかくお子様のことを信じ、温かく見守ってあげて欲しいですね。
(企業に就職した男子の母親)
- 最後まで諦めなかったことが好結果につながったような気がします。就職活動では早い段階から情報を共有して、親子で一緒に考えることも大切だと思います。
(企業に就職した男子の父親)
- 親元を離れて暮らしていたので、よく電話で「最後まで頑張りなよ」と励ましていました。履歴書の添削や面接の練習など、就職課をうまく活用できたのはよかったですね。
(企業に就職した女子の母親)
- 公務員をめざして本格的に勉強を始めたのは3年生になってから。変にプレッシャーを与えないようにと思い、なるべくそっと見守るようにしていました。
(公務員になった男子の母親)
- 本人が夢に向かってまっしぐらという感じだったので、親の出る幕はほとんどありませんでした。学院大は企業とのパイプがしっかりしていますね。
(企業に就職した男子の父親)

奨学制度にますます力を入れています

本学では、十分な能力を持っていながら、経済的な理由によって大学生活を続けることが困難な学生をサポートするために、さまざまな種類の奨学金制度を設けています。本学独自の各種奨学金のほか、日本学生支援機構奨学金や地方公共団体奨学金など、多くの学生が奨学金を活用しています。本学独自の奨学金の中には、次の2種類のように返還の必要のないものもあります。

■東北学院大学給付奨学金

全学部・全学年が対象で、勉学意欲・人物ともに優良でありながら、経済的な理由によって修学が困難に

なった学生に対し、学資として年額300,000円を給付する制度です。返還の必要はありません。

■東北学院大学緊急給付奨学金

全学部・全学年が対象で、家計支持者の死亡や疾病、失業などによって家計が急変し、修学が困難になった学生に学資を給付する制度です。返還の必要はありません。

奨学金について詳しく知りたい方は、学生課までお問い合わせください。

●学生課 TEL.022-264-6472

北海道での受験のチャンスがさらに広がります

2011年度入試において、一般入試前期日程の地区試験場に旭川と帯広が加わります。これにより、一般入試前期日程の地区試験場は11ヶ所（札幌・旭川・帯広・青森・八戸・秋田・盛岡・山形・鶴岡・郡山・東京）となります。なお、札幌・旭川・帯広の各試験場は2月1日の全学部型のみ試験となります。

入試についての詳細は、受験ガイドやホームページなどで確認してください。

海外留学プログラムをいろいろ設けています

本学では異文化を体験し、グローバルな視野とコミュニケーション能力を養うためのきっかけとして、さまざまな海外留学プログラムを設けています。夏休みを利用した1カ月ほどの短期留学や、春休みに5週間あまりにわたって行われる海外での語学研修・インターンシップ、最長1年間の交換留学など、それぞれの目的に合わせて選ぶことができます。また、英語によるコミュニケーション能力を高めるために、TOEICやTOEFLの受験対策講座も開設しています。詳しくは大学のホームページをご覧ください。国際交流課までお問い合わせください。

●国際交流課 TEL.022-264-6425

文学部に総合人文学科を新設します

(設置届出済)

2011年5月、東北学院は創立125周年を迎えます。そんな記念すべき節目の年に、文学部総合人文学科が誕生します。総合人文学科は、これまでのキリスト教学科の牧師・伝道者養成の使命を継承するとともに、新たに思想・哲学分野と文化・芸術分野を設け、グローバル・スタンダードな仕事力を発揮できる人材の育成をめざします。これにより文学部は、総合人文学科・英文学科・歴史学科の3学科12分野専修になります。

広く一般向けに公開講座を開講しています

本学では“地域に開かれた大学”の一環として、講演会やシンポジウム、各種演奏会、英会話集中コースなど、さまざまな形で研究成果を開放し、広く社会に寄与するための公開講座を開講しています。

9月以降もバラエティー豊かな講座をラインナップしていますので、興味のある方は大学のホームページをご覧ください。研究機関事務課までお問い合わせください。講座によっては事前の申し込みが必要です。

●研究機関事務課 TEL.022-264-6405

ホームカミングデー(第11回同窓会)を開催します

全国に広がる同窓生のネットワークは、本学のかげがえのない財産です。そんな校友の輪をさらに広げるために、今年もホームカミングデー(第11回同窓会)を下記の通り開催します。変わらない笑顔で迎えてくれる友人や恩師たち。懐かしい出会いのドラマが、そこにはあります。お申し込み・お問い合わせは、東北学院同窓会(庶務部校友課 TEL.022-264-6468)まで。

日時	内容
10月16日(土) 13:00~ 17:00~	記念礼拝・記念式、 パイプオルガンコンサート(土樋キャンパス) 懐かしい出会いの夕べ(江陽グランドホテル、会費制)



カウンセリング・センターは、 学生とそのご家族の“よろづ相談所”です

本学のカウンセリング・センターは、学生生活における悩みごとや相談ごとがあるとき、気軽にご利用いただける“よろづ相談所”です。本学の教員が兼任カウンセラーとして個別に対応しているほか、必要に応じて専任カウンセラー（臨床心理士）や嘱託精神科医など学内外の専門スタッフを紹介しています。もちろん相談は無料で、秘密は固く守ります。学生に関係のある内容であれば、ご家族からのご相談にも応じています。お問い合わせは、各キャンパスのカウンセリング・センターまで。

- TEL.022-264-6410(土樋キャンパス)
- TEL.022-375-1186(泉キャンパス)
- TEL.022-368-1326(多賀城キャンパス)

バイオテクノロジー・リサーチ・コモン (BRC)棟が誕生しました

2010年3月、多賀城キャンパスに完成したバイオテクノロジー・リサーチ・コモン(BRC)棟は、「環境保全と健全生活のためのバイオテクノロジーの統合的研究」を実施するための先端バイオテクノロジーの研究施設です。この施設で学生は先端バイオ技術の知識を身につけ、新たな可能性を探る科学技術者としての素養に磨きをかけることができます。また、地域の子供たちのための公開実習や講習のための拠点としても幅広く活用することになっています。



図書館では卒業生への 館外貸し出しを行っています

図書館では、本学の卒業生を対象に図書資料の閲覧や館外貸し出しを行っています。希望者にはLibrary card(利用許可証)を発行しますので、身分を証明できるものを持参し、受付カウンターまで申請してください。Library cardは3館共通でご利用いただけます。詳しくは、各図書館までお問い合わせください。

- 中央図書館 TEL.022-264-6493
- 泉キャンパス図書館 TEL.022-375-1174
- 多賀城キャンパス図書館 TEL.022-368-1206

博物館を無料開館します

博物館では、6月の学部オープンキャンパスに続き、10月16日(土)のホームカミングデー、10月の大学祭(六軒丁祭)、12月17日(金)の公開クリスマスに合わせて無料開館を実施します。これらの日は一般の入館料200円が無料となります。未就学児や児童、生徒、学生、65歳以上の方などは、ふだんから無料とさせていただいています。詳しくは博物館までお問い合わせください。

- 博物館 TEL.022-264-6920

TGUカレンダー

7 July

31⊕ 夏まるごとオープンキャンパス(泉・多賀城)

8 August

1⊕ 夏まるごとオープンキャンパス(多賀城)

3⊗ 授業終了

4⊗ 前期試験(土樋・泉 ~10日、多賀城 ~11日)

11⊗ 夏休み開始(土樋・泉)

12⊗ 夏休み開始(多賀城)

9 September

9⊗ 東北学院大生のための合同企業セミナー

11⊕ 夏休み終了

13⊕ 授業開始

10 October

10⊕ 大学祭(泉・多賀城 ~11日)

10⊕ 秋のオープンキャンパス
(教養学部・工学部)

16⊕ ホームカミングデー(第11回同窓祭)

22⊗ 大学祭(土樋 ~24日)

11 November

11⊗ 推薦入学試験

12 December

3⊗ 泉キャンパスクリスマス

16⊗ 大学クリスマス(~17日)

17⊗ 公開東北学院クリスマス(土樋)

20⊕ 授業終了

21⊗ 冬休み開始・集中講義(~27日)

※日程は変更となる場合があります。



杉山元治郎 小高教会牧師として再出発

経済学部教授 いわた 岩本 よしてる 由輝



杉山が建設した小高教会教会堂

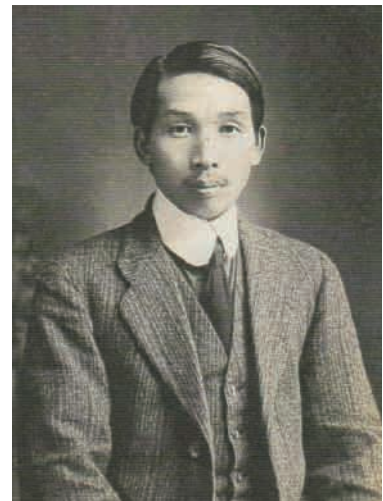
肺結核の初期症状である肺浸潤で東六番丁教会牧師の辞任を余儀なくされた杉山元治郎は、1909年11月24日に泉佐野の生家に戻り、大阪の長南病院と浜寺（現堺市）の石神病院の診療を受けますが、泉州の温暖な気候と両病院の処置が適切であったようで、1910年3月末には医師もびっくりするほどの回復ぶりを示すことになり、「ベースボールを久々にやる」と日記に書くまでになりました。杉山はもともと頑健な人だったのかもしれませんが、こうなると身体をもてあますようになり、5月10日には仙台に戻って来ます。5月14日、帰仙の挨拶に東北学院を訪れ、シュネーダー院長から少し様子を見てから福島県相馬郡小高町（現南相馬市小高区）の日本基督教会（現日本基督教団）小高教会牧師に静養を兼

ねて赴任するよう勧められています。そして、週に1回、宮城病院（現東北大学医学部附属病院の前身）に行き、診察を受けていましたが、6月7日、「別に心配はいらぬ」といわれ、小高教会赴任の手続きをリフォームドミッションの事務所で行っています。そして、7月17日、小高町に着任しましたが、小高教会には教会堂がなかったので、当面の下宿先である信者の林フヂ宅を教会とすることにしました。

7月24日午前8時から日曜学校を開くと、男の子20人、女の子4人の出席がありましたが、夜の礼拝には男女各2人の出席があっただけで、次週から礼拝を午後3時からに変えても状況に変化はありませんでした。街頭に出てクロス協会以来の説教を行っても誰も立ち止まってくれません。杉山元治郎、曠野の叫びを続ける毎日でした。隣村の金房村（現南相馬市小高区）大田和にウィリアム・エドウィン・ホーイによって授洗された2人の信者がいましたが、すでに高齢で常に教会へ礼拝に来れる状況にはなかったので、杉山はよくそこを訪ねました。

杉山は、その往復の途中の飯崎（はんざき）というところに、よさそうな土地なのに荒地にされているところがあるのに気づきました。聞いてみると、実は幕末に中村藩

家老の富田高慶が二宮尊徳の仕法で水田として開発しようとしたが、水保ちが悪くて失敗し、放置されたままになっているということでした。要するに、ざる田とか、かご田といわれる土地ですが、大阪農学校出身の杉山はそういう水はけのよすぎる土地には、果樹、とくに葡萄を植えればよいということを知っていました。下宿の隣家はその土地の所有者の1人であったので、年10円の小作料で2反歩（20アール）を貸してくれないかといったら、喜んで貸してくれました。杉山はそこに葡萄や桃や梨を植えてみました。また、玉葱やキャベツも作りました。果樹はすぐには成果はみえないのですが、野菜のほうはすぐに成果があらわれます。はじめのうちは、“耶蘇坊主が何をやってるか”という目で見ていた農民も、“二宮先生がもてあました土地で玉葱ができた”ことは驚きであったようで、おずおずと声をかけてくるようになり、農民との交流がみられるようになりました。



小高教会牧師の杉山元治郎

■土樋キャンパス
 大学院:文学研究科、経済学研究科、経営学研究科
 法学研究科、法務研究科
 学 部:文学部・経済学部・経営学部・法学部(各3・4年)
 夜間主コース
 〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目3番1号
 TEL.022-264-6411 FAX.022-264-3030

■多賀城キャンパス
 大学院:工学研究科
 学 部:工学部
 〒985-8537 宮城県多賀城市中央一丁目13番1号
 TEL.022-368-1116 FAX.022-368-7070

■泉キャンパス
 大学院:人間情報学研究科
 学 部:文学部・経済学部・経営学部・法学部(各1・2年)
 教養学部
 〒981-3193 仙台市泉区天神沢二丁目1番1号
 TEL.022-375-1121 FAX.022-375-4040

東北学院中学校・東北学院高等学校
 〒983-8565 仙台市宮城野区小鶴字高野123番1
 TEL.022-786-1231 FAX.022-786-1460

東北学院榴ヶ岡高等学校
 〒981-3105 仙台市泉区天神沢二丁目2番1号
 TEL.022-372-6611 FAX.022-375-6966

東北学院幼稚園
 〒985-0862 宮城県多賀城市高崎三丁目7番7号
 TEL.022-368-8600 FAX.022-309-2655

οἶπανος

「ΟΥΡΑΝΟΣ(ウーラノス)」は「天」を意味するギリシャ語です。ヘブライ人への手紙は、イエス・キリストを「このように聖であり、罪なく、汚れなく、罪人から離され、もろもろの天よりも高くされている大祭司こそ、わたしたちにとって必要な方なのです」(7章26節)と描写しています。この個所にも οἶπανός の語が用いられています。

οἶπανος ウーラノス

東北学院大学
 広報誌 vol.132

広報誌編集委員会

委員長	総務担当副学長	柴田 良孝
副委員長	総務部長	日野 哲
委員	宗教部長	佐々木哲夫
	文学部教授	楠 義彦
	経済学部准教授	白鳥 圭志
	経営学部教授	佐藤 邦廣
	法学部教授	伊藤 一義
	工学部教授	石川 雅美
	教養学部准教授	山崎 冬太
	総務部総務課長	門脇 邦知
	総務部総務課長補佐	齋藤 信二
	総務部総務課	薬科 明宏

東北学院大学広報誌『οἶπανος(ウーラノス)』に関するご意見・ご質問をお待ちしております。

本誌における個人情報及び掲載記事の取り扱いについて

本誌に掲載されている個人情報は、本人の了解のもとで本誌に限り公開しているものです。よって、第三者がそれらの個人情報を別の目的で利用することや、本誌の無断転載はお断りしております。

発行日は、7月20日・12月20日です。

発行日 2010(平成22)年7月20日
 編集 東北学院大学 広報誌編集委員会
 発行 東北学院大学
 〒980-8511
 仙台市青葉区土樋一丁目3番1号
 TEL.022-264-6412 FAX.022-264-3030
 URL <http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/>
 E-mail uranos@staff.tohoku-gakuin.ac.jp

我ら 卒業生

「なれるかも」から「なってる」へ



ホテル業界で働くようになってから、食文化に対する興味の幅が広がり、ワインの世界に入り込むきっかけにもつながった。

大学ではTMS(軽音楽部)に所属し、「ホワイトロック」というバンドを組んでいました。サークルの仲間と各地に演奏旅行に出かけたことは、かけがえない思い出です。北海学園大学の発表会に1組だけ招待されて参加したときの感激も忘れられません。

卒業後は飲食業界で働いていましたが、やがてホテル業界に転職。プロのサービスマンとしての道を究め、自分のポジションを高めるためにはソムリエをめざすしかないと思い、必死で勉強しました。ひょっとしたら「なれるかも」という思いから、具体的に「なるためには」と考え直し、本気で「なってる」と心に誓ったことは、自分の生き方に対するこだわりでもあります。マスターソムリエになった今も「お客様の喜びは自分の喜び」というサービスの基本を大切にしています。

東北学院の同窓会には、自分の勤務先のホテルを利用していただいていることがきっかけで参加しました。さまざまな職業の皆さんと世代を越えて人間的なお付き合いができるのは大きな喜びです。いざというときに卒業生が結束できるのは、東北学院大学の強みの一つ。以前、札幌で「東北学院大学文化講演会」が開催されたときは、北海道にある同窓会の全支部が力を合わせて、母校のイベントを盛り上げました。

在学生の皆さんは、とにかく本気で打ち込めることを見つけ、自分の夢や目標に向かって努力を続けてください。私の好きな言葉は「願望」。夢のスタートラインは、いつも“願い、望む”ことから始まります。



ノホテル札幌 シェフソムリエ JSA公認マスターソムリエ 澁谷 昭さん

1969(昭和44)年経済学部経済学科卒業。第5回フランスワイン・スピリッツ全国ソムリエ最高技術賞コンクール優勝(1987年)、第7回世界ソムリエコンクール日本代表(1992年)など、ソムリエとして輝かしい経歴を持つ。フランス食品振興会ワインスポークスマン北海道代表顧問、日本ソムリエ協会北海道支部監事、札幌日仏協会常任理事ほか。秋田県出身。

編集後記

この5月に宇宙航空研究開発機構は、金星探査機あかつきとともに小型ソーラー電力セイル実証機イカロスを打ち上げました。イカロスは、20メートル長の対角線をもつ正方形の帆で光圧を受け推進する宇宙ヨットです。光の圧力を受けて加速するという話にまず驚き、さらにこのアイデア自体が今から100年も前にあったと知り、二重に驚かされました。

昔からあること、身近にあることを熟考し、地域貢献をはじめ、さまざまな形で具体化し、現代的に実用化していくことは、教育・研究機関の責務です。東北学院大学は引き続き緊張感をもって、建学の精神を忘れず努力していきたいと思えます。